

家族のすごさ

東広島市立高屋中学校

3年 神長 結花菜

私は、この家族をすごいと思う。

その家族は、父、母、長女、長男、次女、という構成だ。私はその家族の一員で、長女（14才）。姉弟の一番上でもある。下には、弟の壮和人（そわと・13才）と、妹の心乃美（このみ・6才）がいる。ここまではなんのへんてつもない五人家族だ。弟と妹が二人とも自閉症という脳の障害を持っていることを除いては。

さて、これで私の家族のどこがすごいか分かりますか？

弟だけでなく、妹も障害を持っている。ということですごいと思われる方もあるだろう。しかし、私が言いたいすごさはそこではない。我が家の一日一日がすごいのだ。例えば、次の様なエピソードがある。

エピソードその一。

「スプーンを、取って、ください。」

たったこれだけの言葉であるが、この『たった』に、大変な家族の努力が要る。

まず、スプーンの絵の下にスプーンと書いたカード、『を』、『取ってください』という三枚のカードを作る。カードの裏台紙にマジックテープをつけ、取りはずし可能にし、他の単語でも使えるようにする。

次に、練習をする。

最初に、スプーンの子と絵のカード見せ、名前を言わせる。それをくり返す。言えるようになったら、二番目に、『取ってください』のカードを見せ、何度も言わせる。この時、『ください』を先に練習させて、言えるようになってから、『取って』をつけたし、言わせる。三番目に『を』をつけて練習し、スプーンを取ってくださいという練習をする。

それができたら次の段階にうつる。

それは、自分が必要な時に、カードを自分で出して、言葉で言う、そして、実際に受けとる、という練習である。その後、自分が必要な時に、カードなしで言えるように、つまったら助言したり、復唱させたりして、自分の身につけさせる。これを家族全員でやるのである。

このエピソードは、私が11才くらいの時の話である。文章にすれば簡単そう

...などと思っていたあの時の自分を引っぱたいてやりたい。それぐらい、自分が実際教える立場になった時は辛かった。

あれから三年、カード無しでもだんだんと、一人で言える様になった壮和人。今では、心乃美でさえまねて、言える様になっている。

これが、大人になって、最終的に人と会話できる壮和人を見れたらどんなにうれしいだろう。

エピソードその二。

「夏休みに親類の子が遊びに来る。」などと言って部屋をきれいにしようと、どたばたするおばあちゃん。その離れに住んでいる事もあってその様子は私達家族にもよく分かった。

ふだん、私の家では、母と私とで家の事をしている。私は母の手伝いで、一人で洗濯物を干しに庭に出ていた。すると、偶然いたおばあちゃんに、

「親類の子の家はきれいだから、結花菜ちゃんの家もきれいにしたらいいのね。」とふいに言われた。

確かに、自分の家は汚い。すみずみまでそうじをしたいのはやまやまだ。しかし、家の事だけでも忙しいのに、さらに散らかす弟と妹の面倒を見なくてはならない。物を片づけるだけで精一杯。そんな家族にその一言...

しかも、皮肉を私に言いますか！？私だって一生懸命に家の手伝いをしているのに...。くやしさがこみあげた。

そして次の日、その親類の家族が来た。幸い、そんな厳しい感じの家族ではなかった。子どもが、食べた後のゴミをそのままにしていると、親が注意して、一緒に片付ける、という家族だった。

両家族を比べて、私が感じたのは、その親類の家族よりも、何倍もの苦勞と協力が重なって成り立っている我が家のすごさだ。

家族が互いを思いやる気持ちは、ものすごく強いし、家族の中の協力態勢はどこにも負けない。私は、そんな家族が大好きだ。我が家よりすごい家族もあるかもしれないが、私にとっては、やはり自分の家族が世界中で一番だ。

これからも、この協力態勢があれば、どんな事でも乗り越えていけると思う。私自身は、その場に何が必要かを考えて、もっと自分から積極的に動けるようにしたい。そうすれば、家族の絆は更に深まると思う。